

5. MRI検査における感染症対策

石川 応樹 上尾中央総合病院放射線技術科

当院では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者のふり分けのために、MRI検査受付時に問診表を使用している。また、検査施行時には、患者のマスクは基本的にすべて外しているため、担当者は必ずフェイスシールドとサージカルマスクを装着して患者対応している。

新型コロナウイルス感染症確定患者および疑い患者の検査を施行する場合には、上記に加え、プラスチックガウン、グローブを装着し、検査中は緊急排気システムを稼働し検査している。そのため、個人防護具（以下、PPE）装着者はゾーニングを意識して行動する必要がある。また、検査を施行するに当たっては、感染対策として防護シートやビニール袋を使用している。検査終了後は必ず環境消毒を行い、感染防御に努めている。

当院の概要

当院は、人口約52万人の埼玉県東部医療圏（上尾市、桶川市、北本市、鴻巣市、伊奈町）に位置する二次救急医療機関であり、総病床数733床を有する総合病院である。MRI検査室は2015年に竣工した新棟の2階に位置しており、3T装置2台、1.5T装置1台の計3台が設置されている。MRI検査室のスタッフは、診療放射線技師5名、受付事務1名である。1日の予約枠数は3台合わせて55件であるが、救急医療機関であることもあり、当日至急の検査依頼も合わせて2019年度の総件数は約1万7000件であった。

当院の新型コロナウイルス感染症対策

現在、当院では新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、正面玄関以外の出入口をすべて閉鎖している。これは来院時の検温を徹底するためである。出入口を1か所にすることによって、すべての来院者に対して体温測定を行っている。

また、外来診察などで当院へ来院される方には、小学生未満を除いたすべての方にマスクの着用をお願いしている。

MRI検査室での事前問診

新型コロナウイルス感染症を疑う症状には、発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐などがある¹⁾。

MRI検査のために来院される患者には、受付の際に、口頭にて簡易的な問診を実施している。問診項目は、下記のとおりである。

- ・ から咳
- ・ 黄色い痰を伴う咳
- ・ 安静時の息苦しさ
- ・ 37.5℃以上の発熱
- ・ 嗅覚・味覚の異常
- ・ のどの痛み
- ・ からだの痛み

・ 全身のだるさ

上記の簡易問診にて2か所以上該当する場合には、問診票の記載をお願いしている。問診票には、上記の項目に加えて、渡航歴、新型コロナウイルス感染症患者との接触歴、カラオケボックスやナイトクラブなどでの飲食などの設問があり、それぞれの項目に対し配点され、この結果が合計6点以上となる場合には「新型コロナウイルス感染症疑い患者」として対応することとなる。

新型コロナウイルス感染症患者との濃厚接触の定義とその可能性について

濃厚接触の定義としては、手で触れることのできる距離（目安として1m以内）で、適切なPPEを使用せず、一定時間（目安として15分以上）の接触があった場合や、患者の気道分泌物もしくは体液などの汚染物質に直接触れた可能性が高い場合となっている¹⁾。

われわれ診療放射線技師が患者と接触する時間は、一般的に短いと考えられる。MRI検査で考えると、実際に患者と接触する機会は、MRI検査受付時、検査施行前の更衣の案内時、検査開始時のポジショニング、検査終了後の検査台から降ろす時となる。そのため、感染者と連続して15分間、1m以内で接触している可能性はきわめて低い。しかし、2020年10月21日に発表された米国の疾